

コロナ禍での大阪観光大学日本語別科における 中国人留学生の生活の現状と考察

——大阪観光大学日本語別科 留学生へのアンケート調査結果から——

Current Situation and Analysis of Studying Abroad under the COVID-19 Crisis:
From the Results of Survey of Chinese Students

in the Institute of Japanese Language, Osaka University of Tourism

辻田真智子、木尾一智、竹口智之、福田真弓、丸山真輝*
孟昭輝、李涛、隋娜**、

TSUJITA Machiko · KIO Kazunori · TAKEGUCHI Tomoyuki · FUKUDA Mayumi
MARUYAMA Naoki · MENG Zhao Hui · LI Tao · SUI Na

This paper aims to analyze and discuss the results of an online survey using Google Forms. The authors surveyed to understand the actual circumstances of the students of the Institute of Japanese Language, Osaka University of Tourism. The above survey results highlighted the direct impact on their diet due to economic deprivation, the need for study support, and the lack of people to talk to due to difficulty in forming relationships on and off-campus. On the other hand, students want to interact with other people, and the authors found that international students need a place where they interact with other people and feel their overseas study in Japan, even if they suffered from the COVID-19 circumstances. This survey was critical in considering future education activities of the authors to stay close to the students.

キーワード：経済的状況 (economic situation)、相談相手 (adviser)、交流 (intercultural exchange)、
新型コロナウイルスの影響 (influence of COVID-19)、留学生 (international students)

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が感染拡大し、出入国在留管理庁は「感染が世界的に拡大している新型コロナウイルス感染症に関して、令和 2 年 1 月 31 日以降の累次にわたる閣議了解、新型コロナウイルス感染症対策本部による公表等を踏まえ、法務大臣は、当分の間、本邦への上陸申請日前 14 日以内に、87 の国・地域(表の 1)に滞在歴がある外国人等について、特段の事情がない限り、出入国管理及び難民認定法(以下「入管法」という。)第 5 条第 1 項第 14 号に該当するものとして、上陸を拒否する」としている。日本経済新聞によると、この水際対策により来日できていない外国人は 2021 年 10 月 1 日時点で約 37 万人に上り、そのうち 7 割が技能実習生や留学生だという。大阪観光大学における対応や

学生の意識については『大阪観光大学における新型コロナウイルス感染症に対する学生の意識調査アンケート——大阪観光大学の新型コロナウイルス感染症対応を踏まえて——』小森・白神(2021)に詳しいが、大阪観光大学日本語別科でも、学生たちが予定通りに入国できず入学延期を余儀なくされたり、入国してからも授業がオンラインになったりと多くの影響を受けている。このような状況下で留学生を送る日本語別科の学生たちが日本でのどのような生活をし、どのような問題を抱えているのかを知るため、アンケート調査を実施した。また、この結果を知ることによって、彼らに必要な支援を適切に行い、少しでも不安を和らげることができればと考えた。また、今後の本学日本語別科の留学生への教育活動においても参考になると考えている。なお、アンケート結果の公表にあたっては、回答者の特定につながらないよう

* 大阪観光大学日本語別科/日本語教育学 **大阪観光大学日本語別科/留学生教育

に表現を工夫した。

2. 調査目的・方法

(1) 調査の目的

新型コロナウイルスは当別科留学生の留学生活においても、様々な影響を及ぼしていると考えられる。その実情を把握する事を目的としアンケート調査を実施した。

(2) 調査方法

1) 調査期間

2021年6月28日～7月2日の期間に調査を行った。

2) 調査方法

大阪観光大学日本語別科の留学生を対象に、Google フォームによるオンラインアンケート調査を実施し、無記名式で回答を求めた。

3) 調査対象者(回答者)

調査対象者は、大阪観光大学日本語別科の在籍留学生53名(2021年8月現在)のうち、日本に滞在する45名であり、そのうち36名から回答が得られた。回答率は80.0%であった。なお、調査対象者の国籍は、すべて中国であった。

4) 調査項目

大阪観光大学本科によるオンラインアンケートと同様の、全13項目を使用した。

5) アンケートの言語

本アンケートには、日本語および中国語を使用した。

3. 結果

Q1.「6ヶ月前と比べて、アルバイトや仕送り等の収入が大幅(2/3以下)に減りましたか?」に対する回答は36件あり、「はい」が33%、「いいえ」が66.7%であった。

Q2.「生活困窮により、食費を減らしていますか?」に対する回答は36件あり、「はい」が25%、「いいえ」が75%であった。

Q3.「生活困窮により、文房具の使用を減らしていますか?」に対する回答は36件あり、「はい」が44.4%、「いいえ」が55.6%であった。

Q4.「生活困窮により、洗剤やトイレトペーパーなどの日用品の使用を減らしていますか?」に対する回答

は36件あり、「はい」が47.2%、「いいえ」が52.8%であった。

Q5.「大学オンライン授業や課題提出の為、貸出パソコンを必要としていますか?」に対する回答は36件あり、「はい」が8.3%、「いいえ」が91.7%であった。

Q6.「オンライン授業などを受講する時のインターネット環境が、自宅にありますか?」に対する回答は36件あり、「はい」が97.2%、「いいえ」が2.8%であった。

Q7.「困ったことや相談したい事がある時、話せる相手(連絡できる人)はいますか?」に対する回答は36件あり、「はい」が77.8%、「いいえ」が22.2%であった。

Q8.「学費を払っている人を選んでください。(複数回答可)」に対する回答は36件あり、最も回答率が高かった項目は「①保護者(父母)」で88.9%(32件)、ついで「②自分(アルバイト収入)」が41.7%(15件)であった。「③貸与奨学金」、「④給付奨学金」はともに0%(0件)であった。

Q9.「6ヶ月前と比べて、学費支弁者(主に学費を払っている人)の収入が大幅(2/3以下)に減りましたか?」に対する回答は36件あり、「はい」が61.6%、「いいえ」が38.9%であった。

Q10.「大学の対面授業再開時に、大学で取り組みたい事がありますか?」に対する回答は36件あり、「はい」が25%、「いいえ」が65%であった。

Q11.「はい」と答えた人に、「どんな事を取り組みたいですか?」とたずねた結果、8件の自由記述回答が得られた。8件中2件が学校での日本語学習を希望するもので、「学校でもっと勉強できます。」と「毎日学校で勉強すること。」であった。さらに、日本語に関するものが2件あり、「日本語を話す機会」、「日本語の会話、聴解を授業で強化してほしい(原文:中国語)」という意見があった。その他の回答として、「体育館を使いたい。(原文:中国語)」、「写真を撮りたいです。サークルに入りたいです。」、「アルバイトの紹介を手伝ってください」、「日本人と友人になりたい」というものがあった。

Q12.「お米・野菜・レトルト食品などの食料支援を受けるとしたら、何を希望しますか?」とたずね、36件の自由回答が得られた。カテゴリー分類の結果、「米」(15件)、「レトルト食品」(15件)で最も多く、「野菜」(9件)、「レトルト食品」(2件)、「果物」(1件)と続いた。

Q13. 最後の「大学に伝えたい事はありますか? (施設・設備など)」という問いに対して 36 件の自由回答があったが、25 件が「なし・ありません・全部良い (原文中国語)」であった。2 件は「毎日学校に行きたい」、「毎日学校で勉強してほしいです (原文通り)」で、毎日学校で対面授業をしたいという意見があった。その他の回答として以下に挙げるものがそれぞれ 1 件ずつ上がった。

- ・奨学金がほしい。
- ・適当な仕事を探して、家のストレスを軽減したいです。
- ・損傷のための椅子を罰しないでください。
- ・施設。
- ・学校に行く時、学校の体育館、食堂は解放できますか。
- ・1 階の空調設備がよくない。(原文：中国語)
- ・学校の教育環境に感謝します。図書館の本の導入を強化してほしいです。
- ・来日前は、アルバイトで学費を稼ぎ、自立した生活を送るつもりでしたが、新型コロナウイルスの影響でアルバイトが難しくなり、無駄な出費を抑えたいと思うようになりました。
- ・安全のためにできるだけオンライン授業の形で勉強したい。

①6ヶ月前と比べて、アルバイトや仕送り等の収入が大幅(2/3以下)に減りましたか?与6个月前相比,您的兼职或父母的汇款等收入是否大幅减少(2/3以下)?

36 件の回答

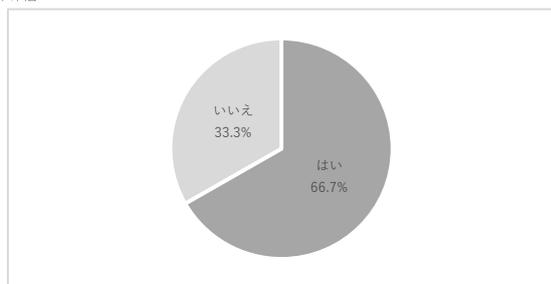


図-1 問1

②生活困難により、食費を減らしていますか?由于生活困难,您是否正在削减食品开支?

36 件の回答

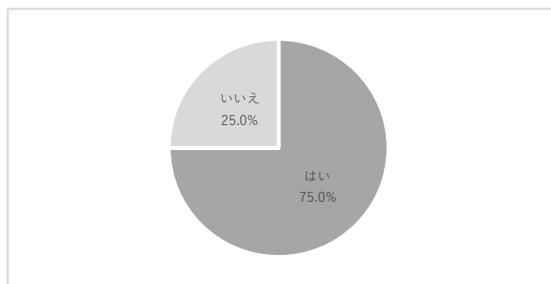


図-2 問2

③生活困難により、文具の使用を減らしていますか?由于生活困难,您是否因此减少了文具的使用?

36 件の回答

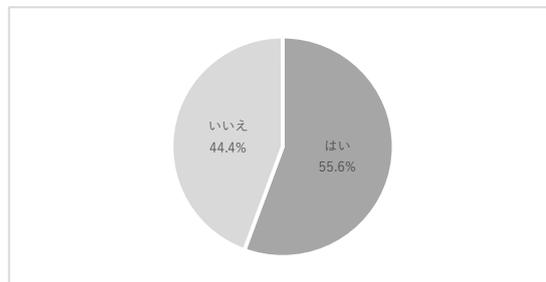


図-3 問3

④生活困難により、洗剤やトイレトイレットペーパーなどの日用品の使用を減らしていますか?由于生活困难,您是否减少了清洁剂和卫生纸等日用品的使用?

36 件の回答

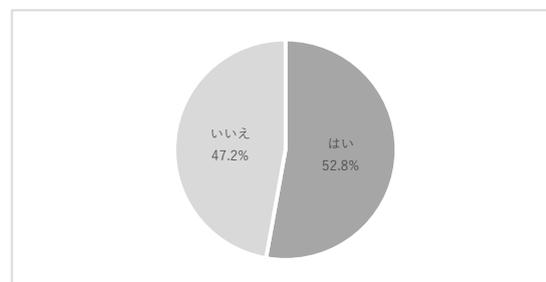


図-4 問4

⑤大学のオンライン授業や課題提出の為、貸出パソコンを必要としていますか?由于网络授课,您是否需要租用电脑来进行在线课程的学习和提交相关作业?

36 件の回答

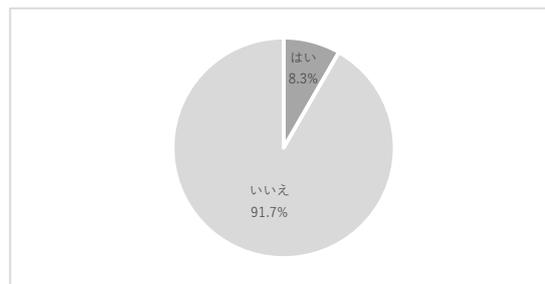


図-5 問5

⑥オンライン授業などを受講する時のインターネット環境が、自宅にありますか?您在进行在线课程学习时,家里是否具备网络环境?

36 件の回答

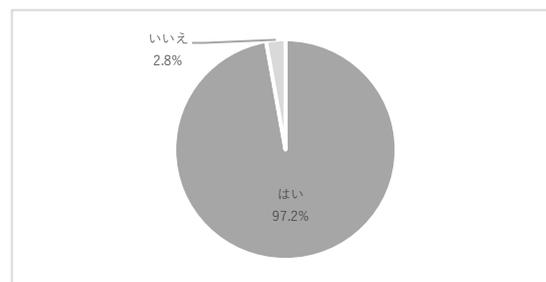


図-6 問6

⑦困ったことや相談したい事がある時、話せる相手(連絡できる人)はいますか? 当您遇到问题或想交谈时, 是否有可以与之交谈(可以联系)的人?

36 件の回答

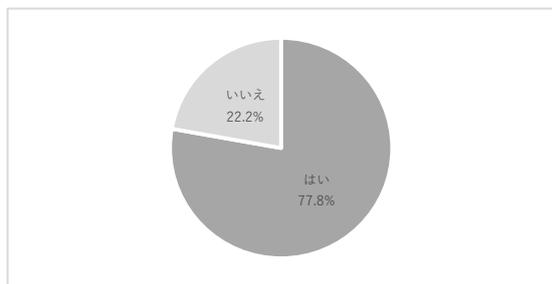


図-7 問7

⑧学費を払っている人を選んで下さい。(複数の回答可) 请选择学费的支付方式。(可多选)

36 件の回答

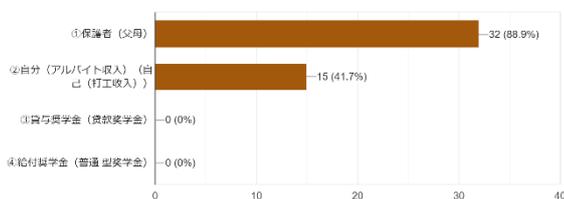


図-8 問8

⑨6ヶ月前と比べて、学費支弁者(主に学費を払っている人)の収入が大幅(2/3以下)に減りましたか? 与6ヶ月前相比, 您的经费支付者(主要是支付学费的人)的收入是否大幅下降(2/3以下)?

36 件の回答

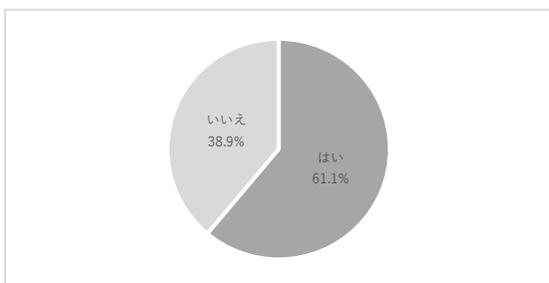


図-9 問9

⑩大学の対面授業再開時に、大学で取り組みたい事はありますか? 当学校恢复正常上课时, 您有什么想在学校完成的事情吗?

36 件の回答

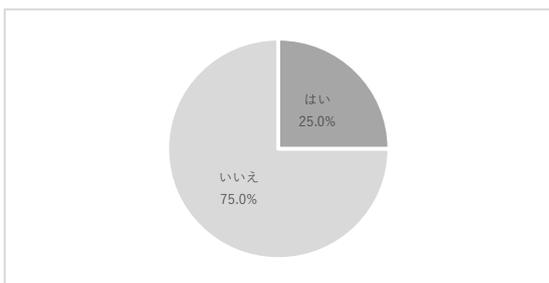


図-10 問10

⑪お米・野菜・レトルト食品などの食料支援を受けるとしたら、何を希望しますか? 如果能免费获得大米、蔬菜或者速食食品等, 您最希望得到哪一种?

36 件の回答

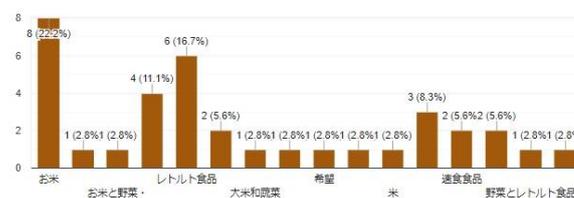


図-11 問11

4. 考察

(1) 学生の経済的状況について

上記の調査から、コロナ禍による働き口の減少、及び就労時間の削減、さらには経費支弁者の収入減などが窺えた。これらのことからコロナ禍による経済的な影響は、別科生にも確実に及ぼしているといえるだろう。経済的な困窮は、生活基盤である食生活を直撃していることが、いくつかの質問項目から明らかになった。こういった事態を受け、当大学の学生支援担当も折々に食糧支援を実施しているが、支援を実施するだけではなく、学生の栄養状況などを把握することも重要になると思われる。また、緊急事態宣言下では難しかったが、朝食時間に安価で定食の支給をするなど、いくつかの支援を検討することが期待される。

(2) 学習支援について

生活困窮により、文具用品など学生生活を送るうえで必要な経費を削減していることが窺えた。昨今は教材のペーパーレス化も進んでいるものの、書籍の購入などにも影響が出ているとすれば由々しき事態であるといえる。一時的な措置になるかもしれないが、図書カードの頒布など、こういった時にこそ、学習を深めるための支援が必要になるのではないかとと思われる。

(3) 相談相手について

コロナ禍で問題になっているのは、経済的困窮や学習継続の困難化だけではない。これらと同様か、それ以上に問題だと思われるのが、人間関係が寸断されていることである。自宅学習を強いられ、オンライン授業が終わった途端にその日の相互交渉もなくなってしまう。授業前後の他愛のない会話も、大学生活において重要な潤滑

油であり、本来であればそれらを豊かにすることが望ましい。もしそれが叶わない場合は、相談役の存在が必要になるが、2割の学生がそのような存在もいない。学生側に大学以外の人間関係があれば大きな問題にはならないかもしれない。しかしながら昨今バイトやサークルなどの活動も制限されているため、学外の人間関係形成を期待するのも難しいだろう。こういったことから、孤独感や行き詰まりを感じた際、対面相談所へ向かわせるなどをして、精神面での不調を緩和する必要がある。また、学生支援・教員側も日々こういった存在を学生に広報することで、精神面のセーフティーネットを確保する必要があるだろう。

(4) その他の学生生活について

質問10・11・13はコロナ禍による影響があると思われる回答と、コロナ禍でなくとも寄せられる回答に分けられると思われる。設備・物資にかかわる支援要望は、予算上実現が難しい項目もある。しかしながら、「日本語で話す機会の増加」や「日本人との接触機会の増加」はこれまで別科でも課題になっていたことである。「コロナ禍だから実現が難しい」ではなく、コロナ禍で人間関係の形成が困難な状況だからこそ、意図的に第二言語を使用する状況を設定しなければならない。

短期語学留学プログラムでも、大学によっては自国にいながらも学習言語使用者との交流を設定することで留学気分を少しでも醸し出そうとする工夫が見られている(例:関西大学短期語学研修コース)。本学においても、英語・中国語の短期プログラムが積極的に展開されている(例:大阪観光大学オンライン留学・海外インターンシップ、大阪観光大学オンライン・交流プログラム)ことから、日本語の短期語学プログラムの検討をするべきではないだろうか。

また、地域の日本語ボランティア活動でも、オンライン上で様々なイベントを開催するなど、日本人との交流が不可能というわけではないはずである。

現在日本に滞在する留学生が少しでも留学していることを実感できる場をオンライン上でも設けることが重要になるだろう。

5. おわりに

今回の調査で、コロナ禍で大阪観光大学日本語別科の留学生たちがどのような生活をし、どのような問題を抱えているのかが見えてきた。この状況下において、本学が留学生たちに行ってきた支援は主に、奨学金等の経済支援と、食品などの現物支給支援であったが、その支援が一時的には彼らのニーズに合っていたこともわかってきた。しかし、一方で、経費支弁者の収入減という点からみると、長期的な支援が必要とされることが考えられるし、相談相手がいないという留学生も多いことがわかった。もちろん、全ての要求に応えられるわけではないが、留学生たちが抱える問題を把握しておくことによって、彼らに寄り添い、不安を和らげることもできるのではないかと考えられる。

また、今回の調査によって、コロナ禍に限らず、留学生生活の中で留学生たちは人との交流を望んでいることも見えてきた。この結果は、今後の教育活動の計画を立てる際に大いに役に立つものである。今後も、留学生たちの声を聞きつつ、留学生たちにとってよりよい環境を整え、より高度な教育を行っていきたい。

【引用・参考文献】

小森三恵・白神昌也(2021)「大阪観光大学における新型コロナウイルス感染症に対する学生の意識調査アンケート——大阪観光大学の新型コロナウイルス感染症対応を踏まえて——」『大阪観光大学研究論集』第21号,大阪観光大学研究論集編集委員会, pp.63-74.

大阪観光大学オンライン・交流プログラム

<https://sites.google.com/tourism.ac.jp/kokusai/%E3%82%AA%E3%83%B3%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%B3%E6%B5%B7%E5%A4%96%E7%A0%94%E4%BF%AE> (2021年11月2日)

大阪観光大学オンライン留学・海外インターンシップ

<https://sites.google.com/tourism.ac.jp/kokusai/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0> (2021年11月1日)

関西大学国際部短期語学研修 https://www.kansai-u.ac.jp/ku-jpn/other/pdf/ijlc_jp.pdf (2021年10月25日)

出入国管理庁「新型コロナウイルス感染症の拡大防止に係る上陸拒否等について」

https://www.moj.go.jp/isa/hisho06_00099.html（2021年11月
25日）